

野生の記号

デザイン学科

系 藤隆弘

Between painting and sign

Department of Design

ETO Takahiro

ウェブサイトやサインシステムのデザインにおいて、ピクトグラムやアイコンといった絵文字は欠かせない重要な要素である。反面、ひとつひとつの絵文字がじっくりと鑑賞されることはなく、あくまで何かを指し示す記号に過ぎない。そこで私は、本来伝達のための道具である記号を、その道具的扱いから解放することで、記号そのものにアート性（鑑賞的価値）を与えることができないかと考えた。

まず、鑑賞にふさわしい媒体としてB1サイズのポスターを選んだ。次に表現方法だが、太く明快な線と繊細な線をひとつの記号に同居させたのが特徴である。トイレのピクトグラムを想像するとわかりやすいが、記号化の過程で髪のようなディテールや身体の厚みは消失する。その失われたものを再び復活させることで、冷たい記号にささやかな「生」を与えたい。結果としては、イラストレーションと絵文字の中間領域の表現となり、静止した像でありながら、動的な揺らぎを孕んだ新しい表現を発見した。今後はモチーフの吟味、モチーフの意味と表現方法の関係などの観点から研究を深めたい。

本作品は、芸術学部フェスタ2018において発表した作品と同じコンセプトのもと制作された。









